

事例2 周辺症状の悪化が見られていた方への取り組み事例

グループホーム和が家 増澤 友美

1、事例対象者

Tさん 90歳 要介護度 4
H11物忘れを自覚H12, 11月神経科受診
老人性痴呆と診断
他の病院にてアルツハイマー型認知症

2、和が家入居前ADL状況

入居前 娘さん夫婦と夫と共に同居されていた。
毎日サービスを導入、デイケア(毎日)・短期入所2箇所(必要時)利用されており
主な介護者は娘さんであり、介護疲れによりGHに入所となる。
可動域制限なし。理解力が乏しく全てにおいて誘導や介助が必要

ADL状況	入居前(入居時)の状況	現在の状況
歩行	独歩 ・ 外はカートを押して歩行 徘徊 有 ・ 急ぎ足で転倒の危険性あり	独歩 自分のペースで歩行
食事	1日2回の食事をとっている。 昼食は施設であり拒否により摂取できず 他者のおかずをとる 食事拒否による低栄養状態 皿に口つけて食べる・手づかみ	1日3回と間食、補助飲料 顔をつけては食べない。 手づかみもあるがスプーンや箸をもって摂取 半介助するが摂取・可能・栄養状態良し
排泄	オムツ使用 便秘 オムツを脱ぎ捨てる 尿意便意有・放尿有 トイレでの排泄困難	オムツは日中、小便に布パンツ 夜間ははぐタイプのオムツにパット 尿意便意有・放尿無 トイレにて排泄が主
コミュニケーション 会話能力	理解しているか不明 伝達不可能 自発語 「あー」「ねえ~」「やだよ~」 同語反復 (ひとつの単語を反復) 非言語的コミュニケーションが9割 体で表現 入居者に受け入れられず、嫌がらせにあう。	理解していること判明(入居後直後) 伝達可能 (身振り・言語) 自発語 単語3つをつなげて言語で表現 他者がある程度、理解できるようになり、 入居者にうけいれられる。



ADL状況	入居前(入居時)の状況	現在の状況
行動	不安なため常に人について歩く。(娘に対し) 椅子に1分と座っていられず落ち着かない つばを吐く 収集	用事あるときに近寄ってこられる 椅子に座って過ごす 入居者と共に椅子に座り過ごす
入浴	着脱拒否のため2人で介助 風呂場に行くのが嫌い 2~3人で洗身・洗髪介助←全身で拒否 湯舟にはいらない ←全身で拒否	介助するがいやがらず 手引き歩行でスムーズに移動 1人で介助 ・ 洗髪は好きではない 洗身は拒否ない 湯舟に自らはいる時が多い
心理	不安表情 たたく ・ ひっぱる 安心できず寝床で寝ない(廊下)	笑顔 他者に対し優しく触れる 食べさせてくれる仕草 毎日、ベットで入眠

3、入浴・コミュニケーションの2点についてどのように対応したか、その経過

1)問題解決の視点

入居前のプラン

- #1 入浴拒否があり清潔が保てない状態
#2 自発語に乏しくコミュニケーションが困難

} •家族からの意見
•前施設からの意見・視点

入居してからのプラン

- #1 気持ちよくお風呂に入れたらいいな
#2 私のいいたい事をわかって！

} スタッフが感じ取った意見・視点
本人はこう感じているのでは..



2)取り組み内容

#1入浴

1、目標として「気持ちよくお風呂にはいれること」

- 1、入浴場の環境を考えた
 - ・本人の好きなものを置く等
- 2、入浴場になれるようになれるまで時間をかけてから脱衣する
- 3、シャワーの音をさせない
- 4、足湯から行い徐々に脱いでいき、恐怖感をあたえない
- 5、職員も服を脱いで一緒に入る
- 6、湯舟は服を着てても一緒につかる
- 7、介助者は必ず1人～威圧感をさける
- 8、嫌な箇所は一番最後にトライ

徐々に風呂場が嫌なところではないことを意識させていく

#2コミュニケーション

1、目標として「何をいわんとしているのか理解していこう」

- ・本人はわかつてくれない葛藤(イライラ)があり、取り除いてあげたい **スタッフの思い**
- 1、本人の理解できる言葉やなじみの言葉をさぐり、使用。
 - 2、単語の数を二つ以上使用せず理解できる範囲にする
 - 3、行動を観察し何を意味するのか **シグナルを把握**
以前の生活暦も把握

3) その事により本人はどう変わったか

現在状況への変化

4、私たちはこのように取り組みましたが皆さんはどう取り組みますか？

